

有機農業・環境
保全型農業部門

農産局長賞

農業法人有限会社自然農法無の会

所在地	福島県大沼郡会津美里町
応募分野	生産
面積	21.2ha
構成員	8人
品目	米、大豆、菜種、そば、野菜50種

取組の紹介

有機農業・環境保全型農業に取り組んだきっかけ

- 会津の豊かな自然を最大限に生かし、持続的な経営を行うためには、地域循環型の有機農法により付加価値をつけて取り組むことが重要と考え、2005年に会を設立。
- 「無の会」の語源は、風や水流、エネルギーなどの根源は「無」であることや、農業は地域文化や教育等がないと成り立たない産業であり、農業以外にも様々な取組を行なおうという趣旨から、農園等ではなく、「会」とした。



自然農法無の会のメンバー

環境負荷低減の取組

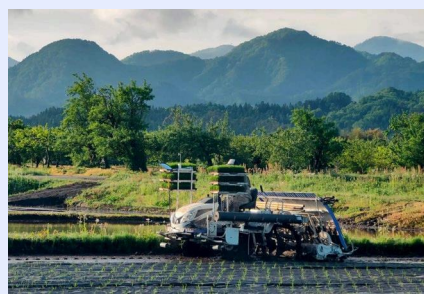
- 土壌診断に基づく堆肥の施肥や、紙マルチの活用、畦畔の雑草管理の工夫等を通じ、栽培期間中、農薬、化学肥料不使用での栽培を行っている（一部有機JAS認証も取得）。
- 自社でたい肥舎を整備しており、地域資源（萱、作物残渣、酒粕等）を受け入れてたい肥化し、自社のほ場で活用するほか、地域の有機農家に提供。
- 水田における生物多様性の保全のため、田面に水がある状態を維持するよう努めている。



たい肥舎の様子

効率的な生産に向けた取組

- 水田の面積拡大を図るため、除草作業を省力化に向けて、紙マルチを使用した栽培に取り組むほか、雑草の発芽を抑制するアイガモロボットや、高性能水田除草機を活用した栽培も実施。
- 土壌生物相のかく乱を防ぎつつ、省力的な大豆栽培が可能となるよう、大学と連携し、カバークローブを活用した大豆の不耕起栽培等の生産技術の確立に取り組む。



紙マルチを使用した田植え

安定出荷・販路確保の取組

- 有機JAS認証を受けた米の生産者のグループで米を集めてロットを確保し（グループで60t以上の卸量）、有機米の卸業者との安定した取引に繋げている。
- 加工業者と連携し、有機甘酒、有機納豆等の加工品を開発。マルシェやオンラインストア等で各地で販売を行う。

消費者等への情報伝達の取組

- 自社のSNSやホームページで情報発信を行うほか、単発での農業研修の受け入れや、都市在住者を対象としたリモートワークと農業研修を両立できるプログラムを提供。



有機甘酒

東北農政局長賞

有機農業・環境
保全型農業部門
(個別経営の部 加工・流通・消費)

株式会社ヨークベニマル

小売業として有機農業の生産から消費に至るまでの体制構築、安定供給と物流コスト削減の両立、さらに消費者への理解促進まで一貫して実践。

代 表:大高 耕一路
所 在 地:福島県郡山市

品 目:野菜全般

取組の紹介

【購入機会の増加に資する取組】

- 福島県を中心に隣県にも店舗を展開。249店舗中194店舗で有機農産物コーナーを常設。
- 慣行栽培と比較して農薬や化学肥料の使用量を削減するなど、安全・安心・美味しさの独自基準をクリアした商品を「三ツ星農産物」として販売。

【効率的な取扱いに資する取組】

- ヨークベニマル版オーガニックビレッジ構想と題して、有機野菜の地産地消を確立するため、出店エリアの行政機関と連携し商談を実施。
- 各生産グループの産地カレンダーを共有し、計画的な生産・出荷体制を構築。
- 少量多品目の詰め合わせBOXでの納品や各産地の生産者をグループ化して集荷。少量生産中心の有機農産物を安定供給できるよう、有機農産物の帳合先(有機JAS認証(小分け業者)取得)を作り、取扱店全店への納品体制を整備。

【生産者等と連携して行う安定的な供給に資する取組】

- 商品規格書は現地で農産物を確認しながら1品ごと決定。生産者と年間契約で取引価格決定。

【消費者等の理解増進に資する取組】

- 全国から計画的に集荷し、売り場を継続展開。生産者による有人試食販売等実施。
- 「みえるらべる」や「環境にやさしい農産物POP」を活用して販売し、認知度向上を図る。



有機農産物コーナー



新規就農者を支援し、出荷量増加を図る

2-12 福島県取り組み報告

各産地の生産者様をグループ化し集荷を実施
帳合先A様に小分け認証を取得してもらい詰め合わせにし各店舗に納品



各店舗への納品体制

ホームページ・SNS等

株式会社ヨークベニマルホームページ <https://yorkbenimaru.com/>